

全国公立学校退職教頭会

会報

第73号
特別編集

東京大会は、中止

課題は、若がいり

全国公立学校退職教頭会

会長 山浦 朝日

令和三年度全国公立学校退職教頭会の代議員会『東京大会』の中止をお知らせいたします。

「新型コロナ」の感染流行に対して、当初は、「ワクチン接種が進めば、開催可能性がある」と思い、五月から九月以降への延期を考えておりました。しかし、東京都における新規感染者数は、現時点で、連日一、〇〇〇人を超える状況が続いております。残念ながら、上京していただくようお願いすることは、無謀としか言えない状況となっております。そのような中での「東京大会中止」判断をよろしくご理解くださるようお願い申し上げます。

全国代議員会は中止されますが、全退教としての活動を中止するわけではありません。各都県支

部において「今出来ること」をどう進めるかが大切だと思えます。「東京大会」の準備として、三月下旬に『大会参加のご意向伺い』をお願いしました。会員数の減少傾向や役員の高齢化問題の実態等についても、同時に、投げかけさせていただきました。真摯なご回答をいただき、誠に有り難うございました。

回答を基にして、更なる「アンケート」も実施し、全退教の見直しを図りたいと考えました。この「アンケート」のまとめに関わる詳細につきましては、四頁で報告いたしますが、全退教の共通した「組織課題」は、『若返り』にあると痛感いたしました。五年経ったら、平均年齢が五歳上がっただけ、という組織では永続性に疑問符がついてまいります。

代議員会という互いに交流し合う大切な場が、残念ですが、二年間続けて無くなりました。しかし、次に会う時には、明るいニュースを報告し合いたいものです。それぞれの都県支部において、『若返り』という観点での活動を続けてくださるようお願いいたします。

代議員の皆さん、来年こそは、お会いしましょう。各都県支部の会員の皆さん、顔を合わせて親しく交流する機会が、来年は、必ずやって来ると期待しましょう。

それまで、お元気で、お過ごしください。

「教育徒然集」の

原稿を募集しています

「教育徒然集」(第六集)の発行に向けて、各会員の皆様からの原稿を募集しています。現在、届いている原稿は僅かです。ぜひ、奮って原稿をお寄せください。内容等は左記の通りですので、ご協力のほどお願いいたします。

記

【原稿の題材】

あのとき、いまどき、そして、これから

【原稿で取り上げてほしい内容】

☆コロナを通して学んだこと

☆感染症発生時の教育のあり方

☆教育ボランティアで手伝ったこと

☆かつて教員教頭として携わった中で感じた教育

雑感など

【原稿形式】

☆形式は、四十字×五行(千字)

〈内、二行は、題名・執筆者名ですが、形式にこだわらず、短い原稿でも結構です。横書きでお願いします。〉

【原稿提出期限】令和三年十月末日

【原稿提出先】 須山 道雄 (研究・研修部長)

令和 3 年度 組 織 表 (案)

NO	役 員	氏 名
1	顧問 (全公教会長)	長谷川 右
2	顧 問	中込 武夫
3	顧 問	荻野 由男
4	会 長	山浦 朝日
5	副 会 長	河田 龍夫
6	副 会 長	福岡 健
7	事 務 局 長	須山 道雄
8	会 計	西川 順
9	会 計	大西 規子
10	庶 務	相原 一矢
11	庶 務	大根田芳明
12	庶 務	吉田 一義
13	庶 務	松島 健治
1	北海道地区理事	未選出
2	東北地区理事	未選出
3	関東甲信越地区理事	未選出
4	東海北陸地区理事	岡 英昭
5	近畿地区理事	三谷 誠一
6	中国地区理事	松岡 睦彦
7	四国地区理事	未選出
8	九州地区理事	徳永 信雄
K1	監 事 (東)	小田木 好
K2	監 事 (西)	土谷 一治
1 秋田	会長・代議員	工藤 英胤
	事務局長	柴田 文平
	事務局	柴田 文平
2 福島	会長・代議員	富田 和志
	事務局長	西坂 敏夫
	事務局	富田 和志
3 群馬	会長・代議員	篠田 昭一
	事務局長	黛 典周
	事務局	黛 典周
4 東京 小	会長・代議員	高松 泉
	事務局長	吉田 一義
	事務局	吉田 一義
5 東京 中	会長・代議員	相原 一矢
	事務局長	福岡 健
	事務局	福岡 健
6 静岡	会長・代議員	深澤 孝俊
	事務局長	豊田 勝宏
	事務局	豊田 勝宏

NO	役 員	氏 名
7 岐阜	会長・代議員	松橋 慎吾
	事務局長	山田 和一
	事務局	山田 和一
8 富山 (休会)	会長・代議員	山本芙二子
	事務局長	森 重一
	事務局	森 重一
9 三重	会長・代議員	岡 英昭
	事務局長	濱政 敬能
	事務局	黒田 敦子
10 滋賀	会長・代議員	三谷 誠一
	事務局長	
	事務局	
11 岡山	会長・代議員	梅原 桂子
	事務局長	黒瀬 敏彦
	事務局	
12 広島	会長・代議員	上野 雅昭
	事務局長	藤原 幸治
	事務局	藤原 幸治
13 山口	会長・代議員	松岡 睦彦
	事務局長	小澤 義郎
	事務局	森本 園枝
14 徳島	会長・代議員	大石 正
	事務局長	
	事務局	
15 佐賀	会長・代議員	池田ミヤ子
	事務局長	内山 秀治
	事務局	福井 正
16 熊本	会長・代議員	徳永 信雄
	事務局長	吉住 次郎
	事務局	守田 猛
未組織県会員の世話人		
NO	役 職	氏 名
1	新潟県世話人	松崎 圭四
2	奈良県世話人	
個人会員がいる未組織道府県		
北海道、青森県、岩手県、栃木県、茨城県 埼玉県、神奈川県、千葉県、新潟県、愛知県 奈良県、京都府、滋賀県、和歌山県、大阪府 福井県、鳥取県、島根県、大分県 (19 道府県)		
会報等の送付における追加部数について		
・ 100 名以上 + 15 ・ 50 ~ 99 名 + 10 ・ 50 名未満 + 5 ・ 休会支部 + 3 ・ 福島県 (東日本大震災対応) + 20		

時間を作って 全退教のホームページを見てく
ださい。スマホでも見られます。
Zenkoukyo fc2 か 全国公立学校退職教頭会で
検索してください。

お詫びと訂正

会報 72 号 10 頁 2 段の岡山県 『野上』様のお名前が間違っていました。正しくは『野上 恵司』様です。
お詫びして訂正いたします。ご迷惑をおかけしました。 担当 福岡

お詫びと訂正

教育徒然集第 5 集 (通巻第 11 集) 8 頁下段の岡山県 『万波』様のお名前が間違っていました。正し
くは『万波 照世』様です。お詫びして訂正いたします。ご迷惑をおかけしました。 担当 福岡

全退教の課題についての意見(まとめ)

去る五月に全退教の課題についてのご意見をお願いいたしましたところ、十六支部のうち、十三支部より貴重なご意見をいただき、ありがとうございます。

また、可能ならば支部役員会としての集約的なご意見をお願いしたところ、四県が、県内役員に書面を出し回答をまとめるなどとして、ご意見を寄せてくださり感謝申し上げます。

ここに簡略ではありますが、左記のように支部の意見をまとめました。今後の全退教の活動についての指針といたしたいと思います。

一 高齢化の問題についての意見

ご意見の中に、「六十歳で会員になった時、余りにも年を重ねた方が、役員だったので、びっくりした」とありました。高齢化の問題は、どの支部も共通した切実な問題になっています。特に、近年六五歳までの再雇用制度ができ入会者が激減することもあり、会員数の減少と高齢化が進んでいます。

そのような中、役員の高齢化の解消のために、役員を若手に交代した支部が、二支部ありました。高齢化解消の問題は、どの支部も大きな課題となっております。

二 コロナ禍における代議員会出欠状況についての意見

代議員会は、組織の基礎を固め、会員の意思確認等の場として欠かせない。たとえ少ない出席でも集まりたいと言う積極的なご意見が、二支部からありました。しかし、コロナ禍では集まるとの会議は無理であるというように参加に消極的な支部が八支部ありました。その対策として、集まるとの会議は無理でも、代議員会のリモート会議を選択肢に入れたらどうかという意見が、三支部ありました。書面で意見を聞くと言う意見もありました。

他に、委任状について「会長に委任します」だけでなく、意見や支部の現状を記入してもらい、代議員会で検討するようにしたい。年会費から代議員会の旅費を出すのはかなり厳しいなどの意見がありました。

三 会員減少と若手入会者がいないことについての意見

六五歳の年金支給、退職後の再任用、退職定年の延長で入会しようとする気持ちが起らない。退職してから、組織に縛られたくない。激務で退職前に体調を崩し早期退職をする等の理由で若手入会者が少ない。会員の中でも、親や配偶者の介護や高齢により健康を害したり亡くなったたりするなどしての退会も増加している。

そのような状況の中、若手入会者を増やすための手立てとして、現役の教頭会の会合に参列して退職教頭会のパンフレットを配布し活動を紹介するなどして退職教頭会の存在をアピールする。現職教頭と交流を持ち、人間関係を深め入会者の獲得につなげていく。退職教頭会としての「学校支援可能者リスト」を作成して現職教頭会に提出し、活用を図ってもらう中で勧誘につなげる。文書、電話等で糸口が出来たら役員が出向き依頼する。六五歳になった時の入会勧誘の工夫をどうするか。

現教頭が何に悩み、何を求めているかを考慮せず、一方的に勧誘するだけでは相手に響かない等のご意見をいただきました。その前提としては、退職教頭会自体を、魅力ある会に、意義を感じる会にするために、新たな方策を模索することが必要となります。非常に難しい課題です。

四 全退教の組織組み直しの課題についての意見

- ・ 全退教への加入支部が四七都道府県中十六支部のみになっていることが大きな課題と考える。
- ・ 支部を増やす工夫を考えてほしい。
- ・ 退会や休会の支部が出ないような支援策や退会、休会支部の復活を図る方策を模索してほしい。

- ・ 東京小・中支部、首都圏支部から本部役員を選出するなど本部機能を強化し、組織改革を行ってほしい。
- ・ 会議や役員数などを現状に合うようスリム化していく。
- ・ 全国の組織が抱えている問題点を全退教が集約し、要請活動を行っていく。
- ・ 代議員会は参加する人の真ん中あたりの地で行ってほしい。
- ・ 代議員会を二年間は東京(関東)で、三年目に地方で開催する案で検討してほしい。
- ・ 全退教が叙勲活動をスローガンに掲げていることに疑問を感じる。
- ・ 叙勲のことも大切だが、年金確保についても考えてほしい。

ある支部では、米寿者の方が傘寿者より倍ほど多いということ。高齢者の問題は喫緊の課題でありながら困難な課題です。

コロナ禍の中、書面で意見を聞く代議員会、リモート会議による代議員会という声もありました。若手の入会者の勧誘では、各支部が様々な工夫をされている姿があり感謝申し上げます。また、全退教の組織の見直しにも種々の意見が寄せられました。本部の役員会で検討し、少しずつではありますが、解決に向けて話し合ってみてほしいと存じます。

【題字 静岡県公立小中学校退職教頭会
前会長 長屋 梅子氏揮毫】

全国公立学校退職教頭会

〒105-0002

東京都港区愛宕一六一七

愛宕山弁護士ビル四〇三号

発行責任者 会長 山浦 朝日